



# 第三中学校だより

校訓

○健康な体

○豊かな心

○たゆまぬ学習

学校教育目標 **気づき・考え・挑戦する** ～新時代を生きる力を創造する～

和光市立第三中学校 〒351-0104 埼玉県和光市南2-2-1  
Tel. 048-461-3306 ホームページ <http://3chu.wako-city.ed.jp/>  
なやみごと相談メール [j3-3chu@wako-city.ed.jp](mailto:j3-3chu@wako-city.ed.jp) 相談室 TEL.461-6698

令和5年10月2日発行

## 折り目をつけること

校長 近藤 克代

この時期になると、本校の周辺には彼岸花が群生している場所があり、紅色や白の彼岸花が一齐に花を咲かせます。新校舎の建設のため、開花の数は少し減ってしまいましたが、今年も見事な彼岸花が学校に彩を添えています。そして、毎年、この彼岸花が咲く頃が、1年間の学校生活のちょうど真ん中となり、時の速さを感じると同時に、1年間の締めくくりの準備を始めたり、次年度について考え始め出していきます。

少し時間を戻しますが、左の写真は9月1日に実施された1年生の校外学習の飯盒炊飯の様子です。飯盒炊飯の主な活動内容は、「班員分の昼食を作り、食す。」という、一見、単純な作業かもしれませんが、しかし、生徒が各々で仕事を分担し、任された仕事を必死に作業をする様子や、飯盒の蓋を開け、炊き上がった米飯を見た時「わー！」などと、自然に声を出して喜ぶ姿を見て、体験活動を通して生徒が得た感情や考えこそが、自己肯定感や自己有用感の育成となり、ウィルビーイング(※)の向上につながっていきます。そう考えると後半の教育活動も生徒が活躍できる機会を大切にしていきたいと思えます。

さて、冒頭の「折り目」とは、紙や服をたたむ時にできる筋(跡)を意味することから、皆さんも一度は経験がある「おりがみ」を想像すると思えますが、日本の伝統的遊びの一つである「おりがみ」は、現在、知育としても取り上げられています。指先を使い、紙の端と端をしっかりと合わせ、きっちりと折り目を付けていく作業が、脳への様々な作用に程よく刺激されることができるとされています。また、「おりがみ」には、平面の紙が立体と変化していくことにより、空間認知能力や作品が仕上がることで成功体験により自己効力感が磨かれるとされています。しかし、これらの効果が期待できると解明されたのは最近であり、昔の人は「おりがみ」を遊びの一つとしか捉えていなかったことでしょう。時代背景や生活習慣が現在とは全く異なり、紙が貴重だった時代ですが、丁寧に折り目を付けて一つの形となった作品を見て、「すごい!」「きれい!」などと発したであろう言葉や感じた気持ちは、先に述べた現在の「おりがみ」の効果と変わらないのかもしれませんが。さらに、「折り目」という意味には、「物事の区切りやけじめ」という点で、行動にメリハリをつける事にも表現され、さらに礼儀や品格を表す「立ち振る舞いや作法」を意味する時にも使われます。

1年間の学校生活を一つの大きなキャンパス(紙)に例えた時、端(始まり:4月)と端(終わり:3月)をしっかりと合わせ、きっちりと折り目(真ん中:10月)を付けることは、最後に出来上がった形(卒業式・修了式時の姿)にとっても大きな影響を与えるかもしれません。今後、生徒会役員選挙、合唱コンクールなどの学校行事をはじめ、日々の授業を通して新しいことに挑戦をする機会や、給食や清掃など日常の中で大事に継続していく事柄など様々です。だからこそ「折り目をつける」今を、大事に過ごしていければと思っています。

※ウィルビーイング:自分や、家族・友人、自分の住む街・国がどうすれば「よい状態」でいられるかについて考えること

